

一般社団法人 日本シュタイナー学校協会

2024年度事業報告

- I. 概要
- II. 事業報告
- III. 組織等の現況
 - A. 会員
 - B. 会議
 - C. 役員
 - D. 事務局

2024年度事業報告

2024年5月13日～2025年2月28日

I 概要

本法人は2024年5月13日の設立登記申請完了をもって成立した。

任意団体として2013年8月18日に発足してから、2015年のアジア・ヴァルドルフ教育会議開催、2018年に第1期がスタートした連携型教員養成講座事業の展開、2019年のヴァルドルフ教育100周年記念事業など、全国の会員校の協働によって積み重ねてきた実績を引き継ぎながら、法人の設置により堅固な社会的な基盤を得ることで、日本シュタイナー学校協会は新たな発展のフェーズに入った。

新設した準会員、フレンズ会員の会員枠によって、新たに多くの友人を迎える準備も整った。すでに、沖縄、ふくやま、わかやま、千葉、宮城の5校が準会員への加入を表明している。教員の集いをはじめとする様々な機会を通じて、相互に学び合い、助け合う関係性を育てていくことになる。

新しい会員制度は、これから受託する予定の名称使用権のサブライセンスとも深く関係している。ここ2年ほどの期間を通じて、準備に向けた対話を国際ヴァルドルフ教育フォーラムと進めてきたが、法人設立と会員制度の再整備により本協会の基本的な準備がほぼ整った。名称管理で連携する予定の日本シュタイナー幼児教育協会との意思疎通も継続して行っている。

次年度には具体的な契約が進むことが予想されるが、事業が具体化した際には、名称管理を教育の質保証の仕組みの一部にとらえ、日本全体のヴァルドルフ教育の質を高めていくための総合的な取り組みを構築していくことが大きな課題となる。

今年度、第6期を迎えた連携型教員養成講座は、当協会の要とも言える活動である。充実した活動を維持するために、次年度から専任の事務局員を迎えることとし、委託契約を取り交わした。十分な能力をもった教師を育成するための取り組みをさらに充実させていく。

現職教員のための実践研修部門(国内・国際)は、今年はボートマ体操を年次注力テーマに設定し、イギリスから講師を迎えて教員の集いのプログラムとして研修を実施した。成果は各会員校に持ち帰られ、現場の活動に生かされていく。年次テーマのほかにも、包括的性教育の勉強会が今年度も活動を継続し、その成果を印刷物にまとめていく段階に到達した。

そのほかにも、同部会の下で、保護者の協働などの活動が活発に行われた。保護者の協働は全国をつなぐネットワークとしても機能しており、今後の展開が期待される。

出版事業、人材マッチング事業は、今年を準備期間として、次年度以降の具体的な活動に繋いでいく。

国際ヴァルドルフ教育フォーラムとの共同作業については、長年にわたってよき信頼関係を築いてきてくださったはたりえこさんによる指名を受け、次年度の1年間をかけて後任候補の安藤しおりさんへの引き継ぎが行われる予定である。

以上のような多様な事業と、会員それぞれの自律的な活動の相互作用により、今年度は日本のヴァルドルフの飛躍的な発展への第一歩を踏み出すことができた。それぞれのご努力に敬意と感謝を捧げつつ、日本の発展が世界のヴァルドルフ教育運動と地続きであるという意識をもって、次年度も取り組んでいきたい。

II 事業報告

1. 連携型教員養成事業

責任者:長井麻美、鳥山雅代

【2024年度登録者数】

全登録者 79名(2018~2024の総計172名)

既存生 60名

新期生 22名

基礎コース修了者 22名(総計99名)

学びのコース修了者 4名(総計12名)

教員認定者 3名(総計8名)

【夏の講座】

2024年8月17日(土)~18日(日)開催

会場:東京賢治シュタイナー学校

参加者 67名

*2024年度の夏の講座は、同日開催のオーケストラオイリュトミーを鑑賞していただきたいという思いから、公演スケジュールを考慮し移動のしやすい東京賢治シュタイナー学校で行われた。

夏の講座の申し込みの際に公演チケット申し込みも同時に行い代金も預り金として徴収支払いをした。参加者にとり大きな体験となり、学びの良い糧となったようである。

教員認定までの道程は難しく達成率は5%となっているが、認定後にシュタイナー学校の担任に採用された方もいる。また、受講途中に採用され、並行して認定に向けての実習、レポートに取り組んでいる方も数名いて、次世代の教師育成という目的をもった活動として協会会員校全体で協力して実践できてきている。また、日々の様々な教育に生かされていると実感する。

今回の開催会場は、前回開催から1年しか経っていないことから、東京賢治シュタイナー学校の皆さんにはかなりの負担をしていただくことになった。今後の開催については数年間の計画的な予定を組むこととした。また、2025年度も同じ日程での高等部発表会の企画が、日程決定後に提案されたこともあり、同日開催の学校協会関係の行事の実施についても今後は早めの計画を策定して調整をしていくことを提案する。

2. 教員の集い

責任者:根岸初子、安藤しおり

2024年8月19日(月)20日(火)9:00~16:30(両日とも)

於:シュタイナー学園(藤野)

テーマ:基調講演 ポートマ体操—動きに育まれる子どもたち
マーティン・ベーカー氏を迎えて

分科会:①1~2年生、②3~4年生、③5~6年生、④7~8年生、⑤高等部、⑥運動遊びと体育、⑦支援教育、⑧演劇

芸術活動:A水彩、B彫塑、C高等部のオイリュトミー、D響きの楽器による音楽、E子どもの心を掴む算数・数学の教具教材作り、F Sheep will tell you 糸つむぎ、G藤野の自然ツアー、H書道、Jボートマー体操

北海道いずみの学校、東京賢治シュタイナー学校、横浜シュタイナー学園、愛知シュタイナー学園、京田辺シュタイナー学校、福岡シュタイナー学園、シュタイナー学園という協会加盟の7校のほかに、仙台、千葉、和歌山、沖縄の各地のシュタイナー学校からの参加者もあった。参加人数はおおよそ100名。

教員の集いに先立ち、8月17、18日の2日間、体育科の先生方を中心にマーティンさんから集中的に学ぶコースもあった。その熱気を受けての「教員の集い」となり、マーティンさんからボートマー体操を通して、ヴァルドルフ教育の神髄に触れられる内容で、非常に意義深い集まりになった。プログラムの終了後には、コアミーティングや自発的な集まりもあった。

「教員の集い」は2005年に1回目の集まりを持ち、その後紆余曲折を経ながら、全国の教員同士の横のつながりを少しでも深めたい、共に学びあう機会を作りたいと毎年夏の時期に行ってきた。2015年のAWTC、2019年100周年のイベント、コロナ等の時以外は毎年各校持ち回りの形で実施してきている。今年から協会が社団法人化したことにより、この集まりも一つの事業と位置付けられることになるが、今後の開催の仕方や担当校の位置づけ、また、「現職教員のための実践研修部門(国内・国際)」との協働など、今後検討が必要である。

3. 現職教員のための実践研修部門(国内・国際)

責任者:安藤しおり

【2024年度 注力分野:体育】

「ボートマー体操・体育カリキュラムについて」

全国の体育教員とコアメンバー有志による合同実行グループで前年度下半期より準備を重ね、イギリスよりマーティン・ベイカー先生をお招きして、8月に藤野で合同研修会を開催した。

2024年8月17~18日:体育教員を中心とした2日間の集中講座を実施

8月19~20日:全国ヴァルドルフ教員の集いにて基調講演と分科会を実施。

【コアメンバー会議】

2024年8月17日 学校法人シュタイナー学園にて
振り返りと次年度の展望を協議。

【性教育分科会 研修会】

2024年8月18日 学校法人シュタイナー学園にて

同年12月にこれまでの研修も含めた成果物をまとめることが決まった。

【来年度注カテーマ】

2024年12月10日:オンライン会議にて、次年度注カテーマ「高等部理科」について
全国の高等部理科教員有志とコアメンバーで準備会議開催。

2025年8月18～19日:教員の集いにて集中勉強会予定(会場:東京賢治を予定)。

【保護者の協働】

2024年度春の定例会(設立総会)後に、愛知の畑中志寿さんを中心に各校からのコアメンバーで活動を再開。10月から毎月第3木曜日にオンライン会議を継続して実施。各校の相談や生徒募集の状況や対応策など、横のつながりを感じることができる集いとなった。

2月には、没後100周年企画でもある高等部合同発表会の主に共同広報に関して臨時の会議を開催。また、各校の保護者間の情報共有のプラットフォームとしてDiscordのサイトを開設。

次年度も現在の活動を継続し、コア会議以外に広報や運営、IT情報などの領域での分科会ができればと考えている。

また、まだアイデア段階であるが、入学動機など各校の保護者アンケートの回答データから生み出される傾向を元に、各校での広報などでの対応策を検討するための情報を作り出したいと考えている。

法人化前の2022年に国際ヴァルドルフ教育フォーラムから提示された「持続可能なヴァルドルフ教育運動のための課題と目標」のなかで、パンデミックを通じて露呈したヴァルドルフ教育運動のウィークポイントのひとつとして「親との協力」が挙げられていたことをきっかけに、学校運営者の研鑽の場として出発した本活動は、2024年度の1年を通して運営者間のネットワークへと発展し、今後の協会事業に重要なインフラとなりつつある。

4. 教員人材業務委託マッチング事業

責任者:中村真理子、太田智華

会員各校をリタイアしたなどの人材の基礎情報の収集、会員各校の支援ニーズの情報収集を行った。

集まった情報を参考にしつつ、次年度のなるべく早い段階で事業が具体化できるように、予算も含めた検討を進めていく。

5. 出版事業

責任者:はたりえこ、根岸初子

時間がかかったが、版下のひな形が完成し、校正にかけられる段階に進める作業を行っている。校正は、専門の校正者がボランティアで担当して下さる予定。

装丁は布引の上製本とする前提で、印刷所に見積もりをとった。

5年かけて売り切る前提で300冊分の予算を次年度に計上する。各校の必要部数のアンケート調査も行う予定。幼児教育協会にも尋ねる。

6. 名称サブライセンスの運用に関する事業

責任者: 中村重郎

名称サブライセンスの受託契約の準備として、国際ヴァルドルフ教育フォーラムのナナ・ゲーベル氏、フィリップ・ロイプケ氏との意見交換会をオンラインにて実施。その後役員・事務局会議にて話し合いを進めている。

7. 事務局機能やITスキルの相互支援ネットワークの構築

責任者: 佐藤雅史

いくつかの会員校の事務局の意向を確認し、前向きな反応を得たが、そこから先に進めることはできなかった。

8. 共同広報に関する事業

責任者: 吉田真実、饗庭千恵子

保護者の協働のオンラインミーティング上で今後の方向性を見定めていくことを確認した。

9. その他の事業

【全国シュタイナー学校高等部 合同芸術企画】

責任者: 安藤しおり、鳥山雅代

「全国の高等部生徒による合同オイリュトミー・オーケストラ・合唱企画」を、シュタイナー没後100年という節目の2015年に再び実施することを企画。2024年秋の臨時社員総会にて日程(2025.8.11-17)と会場(8.17 昭島fosterホール)を決定し、臨時予算にて会場を予約した。2025年度の事業として計画を進めている。

Ⅲ 組織等の現況

A. 会員

当協会の設立時および事業年度末時点での会員は以下の通りである。

	設立時(2024年5月13日)	2024年度事業年度末時
正会員	7	7
専門会員	0	5
準会員	0	0
フレンズ会員	0	0

B. 会議

a. 社員総会

2024年3月31日: 設立総会

2024年6月15日: 第1回臨時社員総会

2024年10月6日: 第2回臨時社員総会

b. 役員事務局会議

2024年5月14日: 第1回役員事務局会議

2024年7月27日: 第2回役員事務局会議

2024年9月20日: 第3回役員事務局会議

2024年11月30日: 第4回役員事務局会議

2025年1月24日: 第5回役員事務局会議

2025年2月23日: 第6回役員事務局会議(臨時開催)

C. 役員

2024年度事業年度末時の役員は、別紙の役員等名簿の通りである。

D. 事務局

2024年度事業年度末時の事務局員は、別紙の役員等名簿の通りである。